

消防トピックス

「瓦落し」

佐賀県唐津市相知消防団

1 唐津市相知町の紹介

唐津市は佐賀県の北西部に位置し、その唐津市の中の南部に位置する相知町は、周囲を山々に囲まれた盆地的地形をなしており、総面積65.08km²のうち15.7%を農地、64.8%を山林が占める農山村です。

町北部の作礼山麓には、“日本の滝百選”の一つである「見帰りの滝」があり、6月から7月にかけてはあじさい4万株が人々の目と心を癒してくれます。

町南部の八幡岳山麓には、“日本の棚田百選”の一つである「蕨野（わらびの）の棚田」が約700枚、36haに渡って広がり、石垣の高さが8.5mという日本一の高石積みの棚田もあります。地元の蕨野地区では様々なイベントを通して都市住民との交流を深めるとともに、棚田の景観保全に取り組んでおり、平成20年には棚田としては全国で初めて“国の重要文化的景観”に指定されました。

また、男の唄で昭和を代表する歌手「村田英雄」の出身地であり、町の中心部には「村田英

雄記念館」が開設され、毎年「村田英雄音楽祭」も行われています。

2 消防団の概要と活動

明治24年に「私設消防組」が設立され、その後いくつかの変遷を経て昭和21年3月に自治消防団として「相知町消防団」が設立されました。現在は、平成17年1月1日の市町村合併により「唐津市相知消防団」として、5分団20部、団員379名で編成されており、ポンプ自動車1台、小型動力ポンプ付積載車20台を配備して日々の消防活動を行っています。

平成21年度から女性消防隊を発足させ、現在5名の女性団員が各種行事の支援や防火訪問、広報活動を行っています。また、同年火災等の現場で不足する消防力を補完する目的で支援団員制度も発足させ、42名の支援団員が昼間の火災時における団員不足解消のために協力しています。

消防団の主な行事としては、年3回の全体訓練や非常召集訓練、秋季大会（ポンプ操法競技



操法競技大会



女性消防団防火訪問

大会)、火災予防巡回広報、年末警戒、出初式、瓦落し競技大会などを実施しているほか、盆踊りや運動会など地域の行事に積極的に参画するなど、地域コミュニティの核として積極的な活動を展開しています。

過去には、昭和 61 年の全国消防操法大会での準優勝や佐賀県消防操法大会（ラッパ吹奏の部）でも優勝するなど、幾多の歴史と伝統を刻んできました。

3 瓦落し競技大会

「瓦落し競技大会」は、唐津市相知消防団独自の伝統ある行事です。

大正 5 年 4 月に「公設相知消防組」を設立し、5 月 13 日にポンプの水勢試験が行われた際、その余興として「ちょうちん落し」などが行われ、放水の高さや距離を競っていたという記録が町史に残っており、長老の方の話によると昭和 11 年頃には腕用ポンプによる「ちょうちん落し競技」が行われていたそうです。

その後昭和 20 年代から 30 年代にかけて小型動力ポンプが配備され、昭和 40 年頃から「ちょうちん落し」に替わって「瓦落し競技」が行われるようになったと言われています。

この「瓦落し競技」は、「ちょうちん落し」の時代から数えると 70 数回の歴史があり、佐

賀県内はもとより全国でも類を見ない伝統行事で、毎年出初式の中で実施してきました。

平成 20 年からは出初式を唐津市全体で実施することになったため、現在は、相知消防団独自の行事として、伝統を守り毎年 1 月に行っているところです。

競技は、相知中学校のグラウンドを会場として実施しており、各部ごとに 11 名一組が一隊となり 20 の部から出場します。

法被にヘルメット、長靴、防火服を身にまとった 11 名の団員たちが、3 組同時に旗振りの合図で大声を上げてスタートし、直線距離で約 80 m 離れた水利（プール）に向かって全力で走ります。

水利から約 100 m 先には、3 枚の瓦が 7 m の高さに吊るされており、団員は、水利に置かれた小型動力ポンプからホース 6 本を延ばし、伝令の合図で吊るされたそれぞれの瓦をめがけて一気に放水し瓦を落とします。このスタートから瓦を落とすまでのタイムを競う競技が「瓦落し競技大会」です。

競技は操法要領に則って実施しますので、ホースを完全に結合する前に伝令がスタートしたり、「放水はじめ」の伝令が来る前に送水すれば減点となります。また、放水した水が一発で瓦に命中しないと吊るされた瓦が揺れたり、



幼年消防クラブ



ちょうちん落し



水しぶきで見えなくなってしまう落すまでに時間がかかることになります。

このようにいかに的確な動作で迅速に放水し瓦を落とすかを競うもので、火災現場での実践にも即した競技であり、団員達も気合が入ります。

唐津市相知消防団は、この伝統ある「瓦落し競技大会」を絶やすことなく後世に受け継ぎながら、市民の安全安心のために日々の活動を行っています。

4 おわりに

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、多くの消防団員も犠牲になりましたが、

当市の相知消防団も平成 18 年 9 月には集中豪雨により、消防団の歴史の中でも記憶にない土石流災害により積載車が流されるなど甚大な被害を受けました。

いうまでもなく、消防団活動は、緊急性、困難性、危険性が高く、複雑多様化する災害に備えて各種訓練を実施していますが、団員の減少や仕事の多様化など、幾多の課題も抱えています。

唐津市相知消防団はこのような厳しい環境の中においても、伝統を受け継ぎながら、地域を思いやる郷土愛と犠牲的精神で市民の安全安心のために日々頑張っています。



瓦落し競技大会